

～心の「たい」がたくさん泳ぐ後期に  
「心・思い」が見える後期に～



秋の涼しさや爽やかさが感じられる季節となりました。窓を開けると金木犀の香りが漂ってきます。5日間の秋休みを終え、令和5年度後期がスタートしました。

始業式では、二つの詩を紹介しながら、後期に頑張ってもらいたいことを伝えました。

一つ目は、子供たちの心の中に住んでいる、「見たい」「知りたい」「聞きたい」「伝えたい」という「たい」がたくさん泳ぐ後期にしてほしいということです。子供たちのやる気を大切にしながら、新しいことに挑戦する気持ちを応援していきたいと思います。

二つ目は、心を伝える、思いを届けるために、小さな「心遣い」や「思いやり」のある行動をしていこうということです。子供たちの心の中には、温かくて純粋な思いやりの心があります。でも、それはいつも見えているわけではありません。「おはよう」「ありがとう」「ごめんなさい」と相手の目を見て声に出すこと、言葉をかけることが苦手な人は、笑顔で接するだけでも思いやりが伝わること、他にも、そっと手を貸す、黙ってそばにいてあげる等の心遣いで相手が温かな気持ちになることを伝えました。

前期は、上学年の子供たちを中心に、学級、学年、学校のために活動する姿がたくさん見られました。後期も、ちょっとした「心遣い」や「思いやり」のある行動で、上の台小に笑顔の花をたくさん咲かせてほしいと思っています。職員も精いっぱい支援していきます。

保護者の皆様には、引き続き本校の学校教育にご理解とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

校長